

備前市施策評価シート

(平成18年度事業)

施策名 (小項目)	し尿処理	コード	作成者	役職	環境課長
		01-01-15		氏名	有吉一博
				電話	64-1821

備前市総合計画の内容から記載する

施策の体系	大項目(基本目標)	安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目(基本施策)	生活しやすいまちづくり
施策の対象と目的 (誰のために、何のために)	し尿・浄化槽汚泥処理が必要な市民・市内事業者のために、許可業者が収集したし尿を効率的に処理することにより、生活環境の保全につなげる。	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	下水道整備の普及に伴い、全体的な処理量は減少しているものの、浄化槽汚泥の投入量は増加傾向にあり、効率的な処理方法を検討する必要があるとともに、施設の老朽化への対応策も必要である。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>し尿処理施設の検討</li> <li></li> <li></li> <li></li> <li></li> <li></li> </ul>	

市民意識調査による施策の重要度・満足度

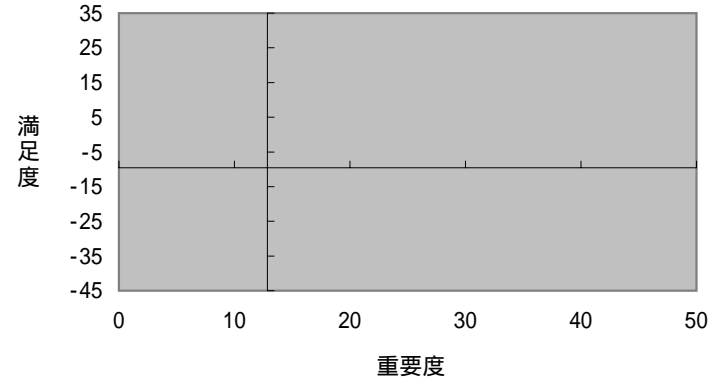
調査年度	H19	H20	H21
重要度(%)			
満足度(%)			

<見直し領域>  
その施策や事業が必要か否かの検討が必要

<維持領域>  
現状の方向を継続

<検討領域>  
その施策や事業の存続の検討が必要

<強化領域>  
内容等を見直し、市民満足度を高める事業を行う



調査結果に対するコメント、市民の反応等

調査対象でない施策の場合は、市民の反応等

し尿処理事業については、下水道の普及とともに減少傾向にあるが、引き続いて維持する必要がある。

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	評価年度		目標値		ベンチマーク	指標の説明	
		H17	H18	H23	H28			
1 し尿投入量	目標	kl	13829.0	13,650.0		10,944.0	8,497.0	施設の必要性
	実績	kl	13829.0	13,198.0				
	達成率	%	100.0	96.7				
2 施設水道使用量	目標	m <sup>3</sup>	21,254.0	19,128.0		15,367.0	15,367.0	処理効率・経費節減目安
	実績	m <sup>3</sup>	21,254.0	17,075.0				
	達成率	%	100.0	89.3				
3	目標							
	実績							
	達成率	%						
4	目標							
	実績							
	達成率	%						

施策構成事務事業の評価

担当課長評価

施策を構成する事務事業名	事務事業評価結果 A~E (高~低)	細事業一覧表	事業分類	事業費(単位:千円)						優先順位 その他
				H17		H18		H19		
				直接事業費	人件費	直接事業費	人件費	直接事業費	人件費	
1 し尿処理施設維持管理事業(備前)	C	し尿処理施設維持管理事業	維持管理	27,384		31,742				
		し尿処理施設整備事業	ハード事業	40,394	35,280	9,891	37,125			
		岡山県し尿処理施設協議会負担金	ソフト事業	30		30				
2 し尿処理施設維持管理事業(日生)	C	諸島地区汲取り支援事業	ソフト事業	84	475	72	280			
3 和気・赤磐し尿処理施設一部事務組合負担金事業	C	和気・赤磐し尿処理施設一部事務組合負担金	法定事務	16,381	235	15,542	225			

この施策に要した費用(人件費込、単位:千円)

H17	H18	H19
120,263	94,907	

以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	その説明
下水道課	公共下水道・合併処理浄化槽の早期整備	下水道の整備の普及状況により影響される
"	下水道放流の実現	希釈度、水量などの許容検討

施策の評価

項目	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い			
	一次評価		二次評価	
	評価	判断理由	評価	判断理由
1 目的達成度	3	適正な事業実施ができています	4	目標値以上にし尿処理量は減少している。
2 事業構成の適当性	3	妥当である	3	同 左
3 施策の有効性	3	必要な施策である	4	経費節減も順調に進んでいる。
今後の展開・協働の可能性・事業の見直し等の担当への指示		下水道放流実現に向けて希釈度、水量などを割り出し下水道課との協議が急がれる。管理事業については、運行停止日を業者協議の上、確保し経費削減に努めているが更に努力を。		和気・赤磐し尿処理施設一部事務組合への統合を検討する。
二次評価者コメント		し尿処理の市内統一化に向けて鋭意努力する。		平成20年度予算の方向性 前年度並みの配分